

鍋物の具材への支出



- 家計調査（二人以上の世帯）結果より -



日に日に寒さが厳しくなり、温かい鍋やおでんを家族で囲んで食べるご家庭も多いのではないのでしょうか。

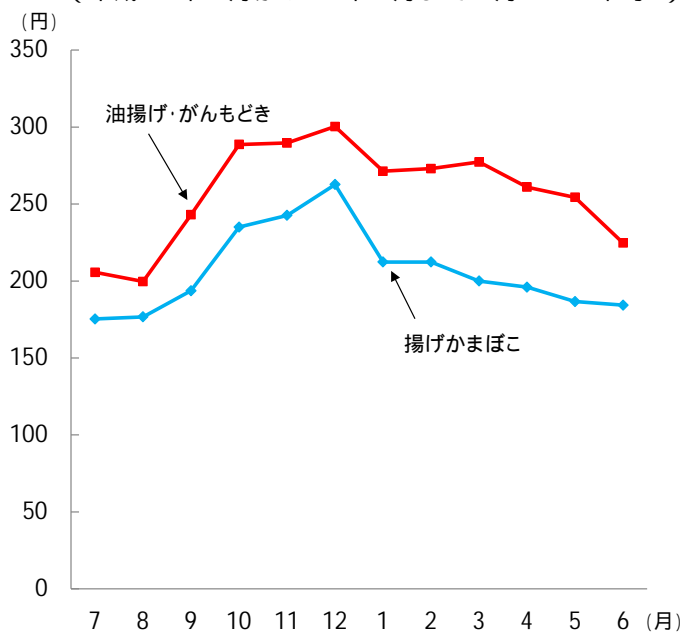
そこで今回は、鍋物の具材への支出について、家計調査の結果から見てみましょう。

鍋物の具材となる品目は秋から冬にかけて支出が増加

鍋物の具材として代表的な、「油揚げ・がんもどき」や「揚げかまぼこ」、「こんにゃく」、「生しいたけ」について、1世帯当たりの月別支出金額（平成23年7月から26年6月までの月ごとの平均^注）を見ると、「油揚げ・がんもどき」や「揚げかまぼこ」への支出は10～12月にかけて多くなっています（図1）。また、「こんにゃく」や「生しいたけ」への支出は、おせち料理の具材としても使われることから、12月に最も多くなります（図2）。

図1 油揚げ・がんもどき及び揚げかまぼこへの1世帯当たりの月別支出金額

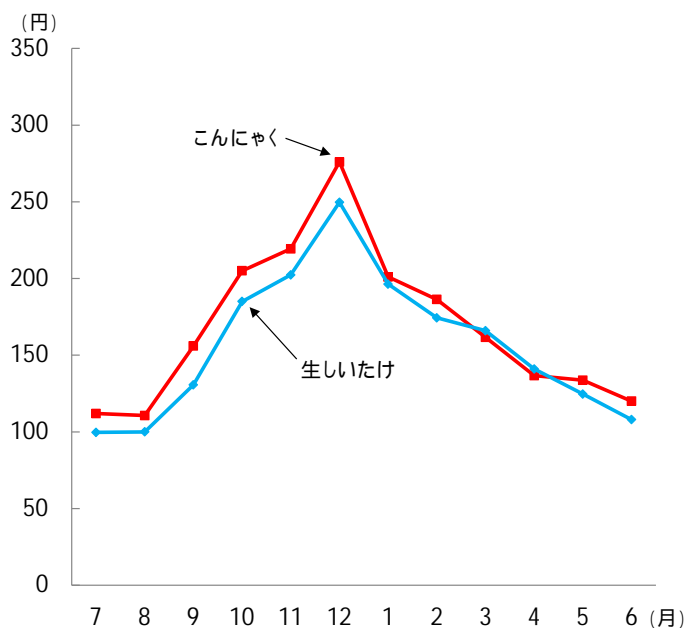
（平成23年7月から26年6月までの月ごとの平均^注）



注 例えば、7月の値は、平成23年、24年、25年の平均値。

図2 こんにゃく及び生しいたけへの1世帯当たりの月別支出金額

（平成23年7月から26年6月までの月ごとの平均^注）

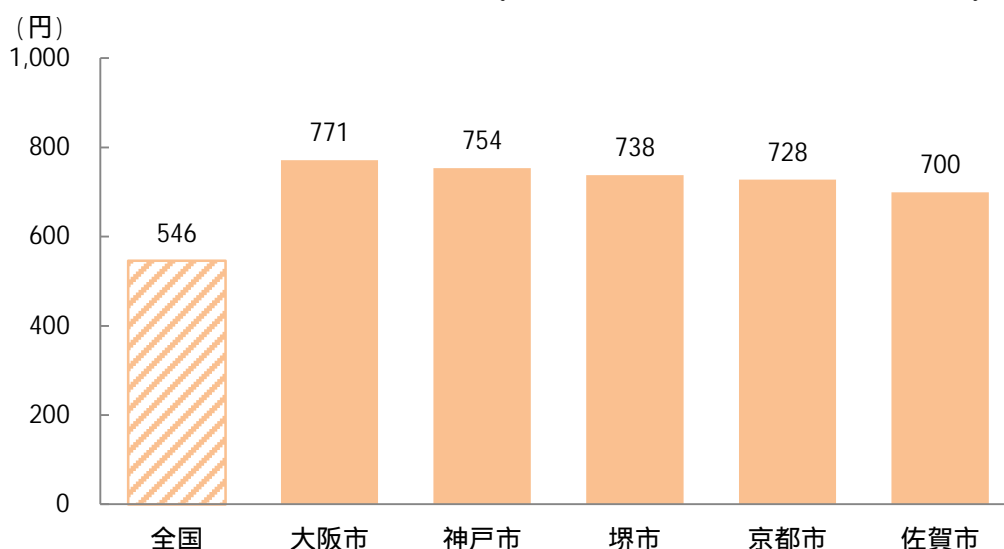


関西地方で多い「はくさい」への支出

次に、寄せ鍋やしゃぶしゃぶの具材としてよく食べられる「はくさい」について、旬を迎える10～12月（平成23～25年平均）の1世帯当たりの支出金額を、都道府県庁所在市及び政令指定都市別に見てみましょう。上位4市はいずれも関西地方となっており、大阪市は771円と、全国平均546円より225円多くなっています。

大阪は、「てっちり」「ハリハリ鍋」の発祥地でもあり、他にも、兵庫の「ぼたん鍋」や京都の「鴨鍋」など関西地方には豊かな郷土鍋料理が多数存在します。はくさいは、こういった鍋物に相性がいいことから、関西地方で多く購入されているとみられます（図3）。

図3 都道府県庁所在市及び政令指定都市別1世帯当たりのはくさいへの支出金額（10～12月計、平成23～25年平均）



60歳以上の世帯で人気の魚肉練製品

最後に、「揚げかまぼこ」や「ちくわ」などの魚肉練製品の年間支出金額（平成23～25年平均）を世帯主の年齢階級別に見ると、年齢階級が高くなるにつれて支出が増加し、60～69歳の世帯で10,934円と最も多く、次いで70歳以上の世帯で10,787円となっており、39歳以下の世帯の2.5倍以上となっています（図4）。

図4 世帯主の年齢階級別1世帯当たりの魚肉練製品への年間支出金額（平成23～25年平均）

